

平成 26 年度第 2 回（130 回）

清瀬市まちづくり委員会議事要旨

日 時：平成 26 年 8 月 19 日午後 2 時から

場 所：生涯学習センター講座室 1

出席者：菊谷隆、吉岡袈裟喜、山本強、鬼澤義信、林光夫、法性由紀枝、川原寿春、山下文夫、小寺茂、渡辺正宏、芹澤正男、内田貞司、今間洋一、大津里美

事務局（企画課長、市民協働係長）

欠席者：長谷部勝也、竹森菜摘、車崎祥子、柴田正子、白井航也、大槻義顯

<配布資料>

- 1 平成 26 年度第 2 回（第 130 回）清瀬市まちづくり委員会次第
- 2 提案「結核治療のメッカの地、清瀬に「結核歴史資料館（仮称）を！」の資料
- 3 提案「清瀬市の PR について」

1 開会

2 前回の確認

委員長：前回の議事要旨の確認をしてもらいたい。

<委員了承>

委員：議事録のホームページ掲載までの期間はあるか。

事務局：1 週間を目安にしている。

3 提案審議

【提案内容】

清瀬は結核療養所のメッカです。

日本の療養所システムは、結核、ハンセン病と、かつて世界一でした。ヨーロッパの結核療養所としてスイスのダウスが知られているだけで、世界にも例がないといわれています。この結核治療の町清瀬は、東京府立清瀬病院より始まったものです。

「結核」も歴史上の病名になりつつありますが、歴史の原点は残したいものです。

清瀬には、結核療養に関する史跡としては、東京病院の一角に「外気舎」一棟が永久保存されていますが、その保存、管理状態はよいとはいえません。

もう一つは、肺結核により清瀬で亡くなった俳人石田波郷さんの石碑ができましたが、清瀬中央公園に「ここに清瀬病院ありき」の文字の刻まれた石碑があります。この地に結核療養所「府立清瀬病院」が、昭和6年10月20日に建てられ昭和45年に閉鎖されますが、この療養所には多い時には5000人が入所していました。入所患者には石田波郷（俳人）、吉行淳之介（作家）、結城昌治（作家）、福永武彦（作家）などがいます。

世界の結核患者で清瀬の名を知らない人は少ないでしょう。今また結核が増えつつあり、世界の結核医療関係者が、複十字病院、結核研究所に研修に、毎年来日されています。

「結核」のメッカである清瀬に、府立清瀬病院の跡地を公園として整備し、また記念館「結核歴史資料館（仮称）」を設立されてはいかがでしょうか。

都立の記念館、できれば東京オリンピックの2020年の開館を目指したいと思います。（あるいは市政何十周年にあわせて）

「歴史資料館では、結核に関する諸々のデータ、療養所で開発された技術・研究、療養所で活躍された医師と看護婦、不治の病と死闘した患者たちの記録を保存、展示します。

また、当時の世界の結核の状況などのデータなども展示・・・。最近の結核罹患について、昨今のデボラ熱などの「細菌学」についても、国立感染症研究所などの協力を得て若い人が学べるような未来（歴史だけでなく）の展示内容にも工夫します。

- 1) なぜ清瀬に結核療養所が来たか・・・。反対運動なども。
- 2) 不治の病と言われた「結核療養所のシステム」とは・・・
- 3) 大気・作業・栄養～療養所の患者たちの日々
- 4) 昔と今、世界の結核の現状について・・・
- 5) 病原菌を科学する～結核菌、天然痘、黄熱病などマイクロ探検

- 6) 結核に関する展示用年表
- 7) 模型制作—武蔵野の自然と清瀬の結核療養所（病院、外気舎、食堂、作業場）など
- 8) 東京病院に現存する「外気舎」を永久保存に早急に手を打つ。
- 9) 結核医療とその周辺の記録資料・図書収集（資料室）
- 10) パンフレット、ビデオ政策「結核療養所」、書籍「結核療養所歴史散歩」をまとめる。

委員長：提案「結核治療のメッカの地、清瀬に「結核歴史資料館（仮称）を！」の資料が配布されている。事務局より説明をお願いします。

事務局：独立行政法人国立病院機構東京病院「外気舎記念館」の有形文化財指定についてまとめたものを説明する。

- ・平成26年2月14日付けで清瀬市有形文化財に指定された。
- ・外気舎は大気療養法の時代に72棟が整備された。そのうちの1棟が現在残っている。建設当時の大気療養法を今に伝える貴重な施設である。
- ・今後の保存について、修復等の東京病院と連携し、対応する必要がある。

続いて清瀬市郷土博物館設置に伴う主な支出経費についてである。委託費は約二千四百万円、工事費は約七億二千万円、用地購入費は約二億六千万円であり、合計は約十億円である。これを1㎡あたりにすると、約四十五万円である。

次に「結核研究所」の資料についてであるが、一般見学は現在可能だが、貸出等含めた場合資料開示は今後詰めていく必要があるとの見解であった。

委員長：外気舎の資料から、質疑はあるか。

委員：外気舎を確認してきた。保存するため、どのように整備していくか、また、資料はどの程度あるのかなど一度整理する必要がある。

委員長：市有形文化財に指定されると今後、どのような扱いになるか。

事務局：後世に伝えていくため、保全の対象となる。

委員：医療の技術的な面や世界遺産の記事は多くある。清瀬市のみではなく、東京都や国も関連している。イメージ創りをしっかりして、方向性を示し、引き継ぐ歴史として残すことが重要である。

委員：改めて、歴史を残すことの重要性は感じる。

委員：漠然としている議題である。具体的な提案がなく、難しい議論に感じる。

委員長：草案を創る前の草案創りがまちづくり委員会である。提案した方の思い

を考え、意見の交換をして進めていきたい。

委員：清瀬は宣伝になるものがない。資料館を設立することは賛成、複十字病院や東京病院と連携していけば可能とも考える。

委員長：提案者の補足部分に記載されていることが、提案者の想いである。

委員：市だけでは、財政的に厳しい。国、都、市が協力することが必要。

委員：歴史的には重要である。ただ、ハコモノを造ればよいという問題ではなく、今あるものを活用し、活かす必要がある。史跡周回コースなど作りそれらを知らしめ、機運を高めることから始めることがよい。

委員：複十字病院にも資料がある。後世に伝えていくべきとは思いますが、若い世代からは後ろ向きなことである。また、不動産価値にも影響があると聞く。

委員：魅力あるまちづくりをしながら、歴史を伝えていくことが必要。

委員：パンフレットの作成ぐらいでもよいと思う。

委員：過去の経過であったり、市の姿勢を伝えていくことは必要だと考えるが、まちづくりの緊急性という面から考えると建設は必要ないと思う。子育て支援など緊急性を考えて選択すべき。

委員：子どもたちに学習させることは必要だと思う。

委員：ハンセン病資料館で子どもたちが学習している。資料館は国が設立した。

委員：施設設置は市だけでは無理。東京病院と複十字病院と協力してパンフレットなど作成し史跡めぐりなどを告知するのもよい。文化面は、図書館の関連資料コーナーを集約して、既存の施設を活用させるとよいと思う。

委員：海外にBCG研究所などがよく知られている。外気舎にまつわるPRは必要。PRをして国や都に働きかけ、段階を踏んでいくことが重要である。

委員：周辺状況をまとめ、結核とまちを結びつけるようなきっかけがあるとよい。結核療養システムは世界一であり、若い世代に繋げていきたい。

委員長：医療のまち、結核のまち、のPR、シティープロモーションの一環として活動することも踏まえ回答としたいがどうか。

委員：どうまちを活性化していくか、遺産登録と結びつけて結核資料として残すこと必要。国の内外に示していきたい。提言にもっていききたい。

委員：人口問題と外気舎は別問題。外気舎を残してあることを示すことでよい。

委員：建物は別にしても、世界に誇る研究を示していくことはよいと思う。

委員：長期的に考えていくべき。

委員長：資料や経過を残していくことは必要だが、建物の提案としては、一度、回答としたい。

委員：今後の取り組み次第によっては、大きく発展するようになっていくと考える。

委員：施設を受入れ、結核を克服した経過は市民の誇り。しかし、そのことが住民増につながるかは意見が分かれるところである。発展させる手段としてこの提案を考えるならば、もっと議論するべきと考える。

委員長：市史編纂も進行中であり、これまでの結研の歩みを記載するよう事務局から要請することも考えられる。次回回答案を確認する方向としたい。では次に「清瀬市のPRについて」に移る。

【提案内容】

池袋等に近いにもかかわらず、自然豊かで住みよい清瀬をもっとPRしたい。キャッチコピーを作ってはいかがでしょう。

・いいね清瀬！

清瀬という名をきいてもピンとこない人が多いが、(埼玉県内と良く間違われます) 地図上で、親指型に飛び出たところ！！というと、あ～あそこ！という反応が良くあります。  →この形がネット上でも良く使われるイイネマークに似ています。

「イイネ！清瀬！」のキャッチコピーはいかがでしょう。

委員：親指の形はフェイスブックのマークである。商標登録の問題があるのではないか。

委員長：キャッチコピーは市民から公募なのか

事務局：「はばたけ未来へ緑豊かな文化都市」は市の将来像であり策定審議会が15年後の未来をイメージできるもの考えた。

委員長：第4次長期総合計画の中では考えているのか。

事務局：まだ、そこまで議論には至っていないが、行政としては必要と考えている。

委員：ずばり、「いいね、きよせ」のキャッチコピーはいかがですかという提案。

委員：肖像権の問題も踏まえて、キャッチコピーを考える部署に提案や意見をするとすることも考えられる。

委員：キャッチコピーだけでなく、いろいろなPRの仕方があると思う。

委員：人口増につながるキャッチコピーはあるとよい。

委員長：関連部署にデザインの検討をお願いします。肖像権の問題もあるので、抵触する恐れもあると考える。このことを回答に盛り込む。

委員：自然豊かで住みよい清瀬の部分は非常によい。住みよい部分をPRできればよいと思う。

委員長：キャッチコピーで有名な市が意外に思いあたらない。

委員：よい例として彩の国さいたまが思い当たる。

委員：現在は募集がないので募集あった場合に応募いただければと思う。

委員：次回まとめた回答示したいと思う。

次回9月16日、14時より中清戸地域市民センターで行なう。